

事業名称	福島県田村地域における持続的空き家対策推進のための相談体制整備事業
事業主体名	株式会社ジェイアール東日本企画
連携先	田村市、一般社団法人 IORI 倶楽部、一般社団法人 Switch
対象地域	福島県田村市・三春町・小野町
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態に合わせた相談体制・連携体制の構築 ・移住や創業支援との連携
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップセンターの設置 ・チラシやホームページの作成 ・空き家活用セミナーの企画・運営
成果の公表先	「田村空き家の窓口」にて公開予定 URL : https://tamura-akiya.com/

1. 事業の背景と目的

東日本大震災以前、福島県は首都圏等からの移住希望先として人気の高いエリアであった。特に県中部に位置する田村地域は、郡山市やいわき市という中核都市からの程よい距離感と豊かな自然環境を持ち合わせていることから、人気の高いエリアとなっていた。

震災後には被災地域から近いこともあり、避難者の受け入れ先としての役割を担ってきた。しかし、震災から7年が経過した現在において、福島県田村地域では避難生活の場となっていた物件や恒久的な生活の場として使用されなくなった物件等、地域の空き家の状況が浮き彫りになってきており、先を見据えた空き家対策の具体化が喫緊の課題となっているが、空き家対策に関する諸施策が県内他地域に比べ進んでいない現状である。

そのため、本事業では福島県田村市を中心とした田村地域において、当該自治体や関係機関との連携を図りながら、空き家の所有者や利活用希望者に対して、空き家の管理・活用等について総合的に相談できるワンストップセンターを設置することで、空き家対策に取り組む人材の育成と専門家等との連携による相談体制を構築するとともにロードマップを描き出し、当地域の空き家対策上の基盤整備に取り組むことを目的とする。

2. 事業の内容

(1) 事業の概要と手順

①事業概要

「株式会社ジェイアール東日本企画」が地域活性化拠点として活用し、「一般社団法人 Switch」が運営する廃校を活用したテレワークセンターである「terrace ishimori (テラス石森)」内に、空き家対策のワンストップセンターを設置。(一社)Switch が中核を担いながら、空き家の所有者や利活用希望者等の相談者に対して、地域の実情に即した適切な提案や情報提供が行えるよう、専門機関との連携体制の構築を図る。

また、定期的なセミナーを実施し、空き家に関する多様な関わり方を提示することで、相談員のスキルアップならびに地域内で空き家に関わってみたい人材や空き家の所有者を発掘し、持続的な取組みに繋げることで、地域の空き家対策の基盤整備を行なう。

①-1 ワンストップセンターの開設

田村地域における空き家対策の基盤整備を行うために、田村市にある廃校を活用したテレワークセンターであるテラス石森に、空き家相談に係るワンストップセンター「田村空き家の窓口」を開設する。

①-2 ワンストップセンターの周知

チラシ・専用ホームページ・FaceBook等のSNSを活用し、「田村空き家の窓口」を周知することで、本事業の認知向上や相談案件の獲得・利活用希望者の発掘に繋げる。

①-3 地域の専門家等との連携体制の構築

地域の実情に即した適切な提案や情報提供が行えるよう、田村地域における空き家に関連する専門機関等をリストアップし、各機関に対して本事業の説明と協力依頼を実施する。

①-4 相談員や専門家の研修・育成

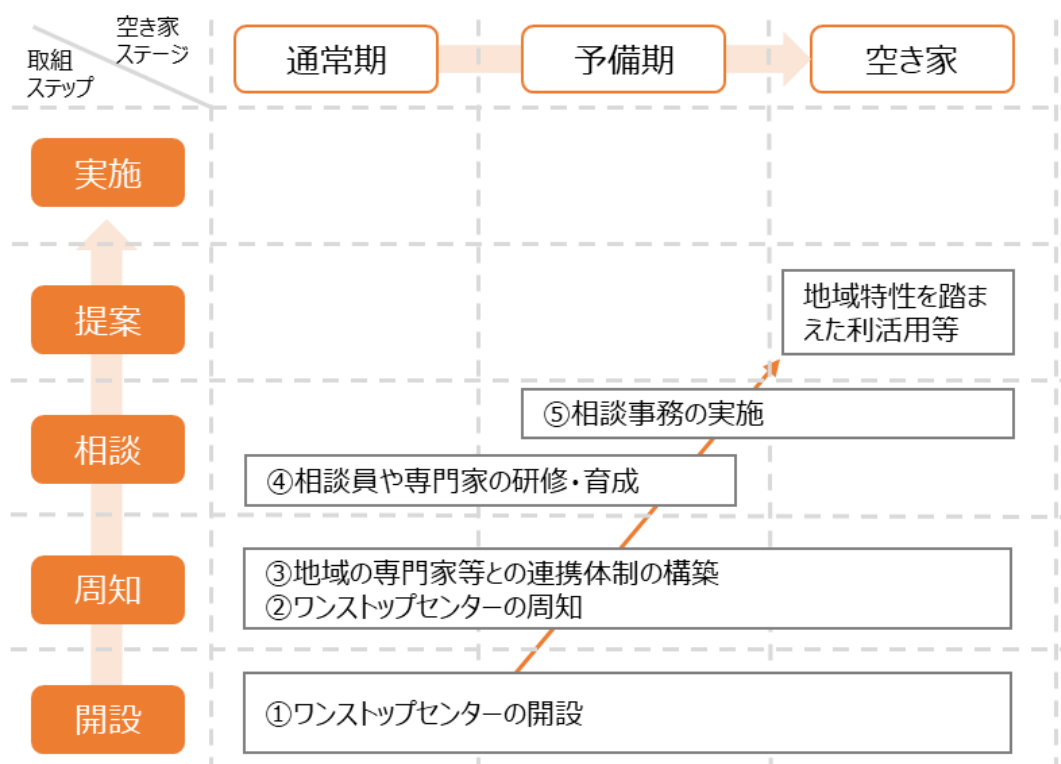
専門家による相談員へのOJT研修を通じた知識・スキルの習得に加え、空き家の相談員の専門知識向上および地域の専門機関・住民へむけた啓発活動の一環として空き家活用セミナーを開催することで、空き家の利活用に関する理解を促進する。

①-5 相談事務の実施

空き家の所有者や利活用希望者等に対し、電話・メール・対面での相談対応を実施する。また相談案件の内容に応じて、より適した専門機関とのマッチングを図る。

②取組フロー

図1. 取組フロー図



③役割分担

表 1. 役割分担表

取組内容	具体的な内容（小項目）	担当者（組織名）	業務内容
①フレストップセンターの開設	運営方針の協議	田村市 (株)ジェイアール東日本企画 (一社)Switch (一社)IORI倶楽部	・事業運営の方針・役割の確認 ・運営方法・スケジュールの調整
	フレストップセンターの開設	(株)ジェイアール東日本企画	・広報チラシ・HP等の作成 ・連携候補機関のリストアップ
		(一社)Switch	・相談窓口の確保 ・相談員の確保
		(一社)IORI倶楽部	・運営全般のアドバイス ・連携候補機関のリストアップ
②フレストップセンターの周知	専門機関・自治体への周知活動	(株)ジェイアール東日本企画 (一社)Switch (一社)IORI倶楽部	・対象エリアの専門機関・自治体への連携依頼
	所有者・利活用希望者むけ周知活動	(株)ジェイアール東日本企画 (一社)Switch	・広報チラシ・HP等の配布・公開
③地域の専門家等との連携体制構築	専門機関との連携体制の構築	(株)ジェイアール東日本企画 (一社)Switch (一社)IORI倶楽部	・対象エリアの専門機関・自治体への連携依頼
④相談員や専門家の研修・育成	相談対応へのアドバイス	(株)ジェイアール東日本企画	・相談員へのOJT研修サポート
		(一社)Switch	・相談員へのOJT研修の運営
		(一社)IORI倶楽部	・相談員へのOJT研修の企画・運営
	空き家活用セミナーの企画・運営	(株)ジェイアール東日本企画	・研修会の企画・運営サポート
		(一社)Switch	・研修会の企画・運営
		(一社)IORI倶楽部	・研修会の企画・運営へのアドバイス
⑤相談事務の実施	相談事務の実施	(株)ジェイアール東日本企画	・相談窓口の運営サポート
		(一社)Switch	・相談窓口の運営・相談者対応
		(一社)IORI倶楽部	・相談窓口の運営アドバイス ・相談員へ相談対応のアドバイス ・相談者への相談対応
実施した取組の取りまとめ・公表	中間実績報告書および完了実績報告書の作成	田村市 (株)ジェイアール東日本企画 (一社)Switch (一社)IORI倶楽部	・各報告書の作成 ・次年度以降の取組について協議

④事業実施スケジュール

表2. 事業実施スケジュール

ステップ	取組内容	具体的な内容	平成30年度							
			8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開設	①ワンストップセンターの開設	運営方針の協議・開設準備	■							
		ワンストップセンターの開設				●				
周知	②ワンストップセンターの周知	専門機関・自治体への周知活動		■						
		所有者・利活用希望者向け周知活動			■					
	③地域の専門家等との連携体制の構築	専門機関との連携体制構築		■						
相談	④相談員や専門家の研修・育成	相談対応へのアドバイス				■				
		空き家活用セミナーの企画・運営				■				
	⑤相談事務の実施	相談窓口の運営				■				
提案	地域特性を踏まえた利活用等	地域特性を踏まえた利活用の案内・情報提供								- - -
-	実施した取組の取りまとめ・公表	中間実績報告書・完了実績報告書の作成				●			●	

(2) 事業の取組詳細

① ワンストップセンターの開設

空き家相談に係るワンストップセンター「田村空き家の窓口」の開設にむけて、各種ツールの作成（チラシ・専用ホームページ）ならびに窓口の運営方針について協議を行った。

相談窓口は、株式会社ジェイアール東日本企画が地域活性化拠点として活用し、一般社団法人 Switch が運営する廃校を活用したテレワークセンターである「terrace ishimori（テラス石森）」に開設した。テラス石森は、田村地域における移住・定住を促進し、新しい働き方やライフスタイルを創造するとともに、それらに関わる人々をサポートしていくミッションを持ち合わせていることから、空き家の所有者や利活用希望者等の相談者に対して、地域の実情に即した適切な提案や情報提供に留まらず、空き家対策の遂行によって広がりを見せてくる様々な周辺の事業やサービスの展開においても中心的な役割を果たすことが可能な「場」として機能することを目指した。

■ 空き家解決のワンストップセンター 田村空き家の窓口

〒963-4313

福島県田村市船引町石森字館 108 番地

(テラス石森内)

TEL 0247-61-7579 (受付時間：平日 10:00～17:00)

MAIL info@tamura-akiya.com

運営主体：一般社団法人 Switch

写真1. テラス石森内



② ワンストップセンターの周知

チラシ・専用ホームページ・FaceBook 等の SNS のアカウントを作成・活用し、「田村空き家の窓口」の周知を行った。また、新聞折込や自治体の広報誌への掲載に加え、各自治体の関係部署や地域の専門機関等に対して、日常業務の中で相談者への紹介を仰いだ。さらに、一時的な周知に留まらないよう SNS を通じた取組の進捗状況を配信も行い、継続的な周知活動に取組んだ。

図2. 田村空き家の窓口チラシ



図3. 田村空き家の窓口専用ホームページ



図4. 田村空き家の窓口専用Facebookページ



③地域の専門家等との連携体制の構築

田村地域の専門機関等をリストアップし、事業周知・協力依頼を行った。例えば、福島県地域住宅生産者グループに所属し田村地域に本部を置いている団体には、電話で本事業概要を説明し、その上で協力の意向を示した団体へは個別訪問による事業の詳細説明および具体的な連携方法について協議を行った。

また、作成したリストは田村空き家の窓口で運営する空き家活用セミナーの案内先としても利用し、実際にセミナーに参加した事業者や問い合わせを頂いた事業者をチェックすることで、より本事業に関心が高く協力的な事業者を絞り込んでいき、より地域の実情に即した連携体制が構築できるよう努めた。

■リスト作成の方法

1. 田村地域に本部を置いてある団体ならびに各団体を構成する事業者を抽出。
2. No・団体名・業種・社名・本社所在地・郵便番号・事業所在地・代表者・TEL・MAIL・主な分野／取扱・URL・備考という項目で整理し、不足している情報を追記し、情報を整理。
3. 重複している事業者のチェックおよび、今後密な関わりが想定される住宅建築やリフォーム等を行っている事業者をチェック。
4. 電話・個別訪問の結果およびセミナー案内での反応をリストに反映し、内容を精査。
5. 関係機関からの紹介やセミナーに参加した新規の事業者を追記。
6. 5・6を適宜繰り返し、内容を精査。より地域の実態に即した連携体制の構築に繋げる。

■リスト作成に使用した元データ（一部抜粋）

- ・福島県地域住宅生産者グループ
 - ・三春町住宅研究所
 - ・みんなで「ふくしまの家」つくる会
 - ・ふるさと福島復興プロジェクトチーム
 - ・ふくしま・地域と自然連環の家プロジェクト
 - ・ふるさと「ふくしまの家」復興住宅会
- ・田村市(上水道)指定給水装置工事事業者
- ・田村市排水設備指定工事店指定一覧
- ・田村市空き家・空き地情報バンク指定宅建業者一覧
- ・三春町指定給水装置工事事業者
- ・三春町下水道排水設備指定工事店一覧

④相談員や専門家の研修・育成

④-1 専門家による相談員へのOJT研修

ワンストップセンターの運営を担う(一社)Switchおよび相談員に対し、効果的な窓口運営と相談員の知識・スキルの習得のためのOJT研修を実施した。既に会津地域において空き家対策の先駆的な取組を行っている(一社)IORI倶楽部にアドバイザーを依頼し、常に変化する空き家を取り巻く状況の理解や売却・賃貸・管理・リフォーム・活用などの各々のニーズに即した相談対応の進め方について、実際の取組事例を用いながら理解を深めた。

写真2. OJT 研修



■OJT 内容 (例)

- ・相談者対応の進め方について
- ・空き家対策のステークホルダーについて
- ・空き家対策における地域団体の役割について

■使用ツール (例)

- ・福島の空き家よろず相談「相談員のための相談マニュアル」
- ・空き家相談員のための想定 Q&A 集「空家相談の手引き～空き家のあれこれお答えします～」

④-2 空き家活用セミナーの開催

地域内における空き家対策の理解促進および空き家所有者や利活用希望者の発掘を目指し、全3回の空き家活用セミナーを実施した。全3回ともに親しみやすいテーマを設定し、2回目以降には前回のセミナーの振り返りやアンケートに記載されていた疑問点に答えるなど継続参加を促す工夫を行った。

図5. 田村地域空き家活用セミナーチラシ

■第1回 空き家活用セミナー 僕らにもできる空き家リノベーション

日時：12月14日(金)18:30~20:00

場所：田村市 テレワークセンター テラス石森

参加対象：田村地域の空き家関連事業者

空き家活用に興味のある地域づくり団体・個人

参加人数：34名

講師：一般社団法人地域のアトリエ ソコカシコ 代表理事 三澤 真也 氏

空き家てらす/民泊 隠れ家 代表 斎藤 拓哉 氏

内容：(1) 事業概要の説明

(2) 「空き家リノベーションのススメ～風土に即した空間づくりの進め方～」

(講師：三澤 真也 氏)

(3) 「1から始める空き家活用～空き家てらすの事例紹介～」

(講師：斎藤 拓哉 氏)

(4) 質疑応答

■第2回 空き家活用セミナー 里山暮らしの始め方

日時：1月11日(金)18:30~20:00

場所：田村市 テレワークセンター テラス石森

参加対象：田村地域の空き家関連事業者

空き家活用に興味のある地域づくり団体・個人

参加人数：25名

講師：筑波大学名誉教授/里山研究所 主宰 安藤 邦廣 氏

内容：(1) 事業概要の説明・第1回セミナーの振り返り

(2) 「民家を直し、民家に暮らして地域の再生を考える」

(3) 質疑応答

■第3回 空き家活用セミナー これからの空き家活用ビジネス

日時：2月8日(金)18:30~20:00

場所：田村市 テレワークセンター テラス石森

参加対象：田村地域の空き家関連事業者

空き家活用に興味のある地域づくり団体・個人

参加人数：45名

講師：コドモエナジー株式会社 代表取締役 岩本 泰典 氏

内容：(1) 事業概要の説明・第1回、第2回セミナーの振り返り

(2) 古民家再生・空き家活用プロジェクト 福島県川内村での取組み

「過去から学び、現在に生かし、未来へ繋げる」

(3) 質疑応答・マッチング

写真3. 空き家活用セミナーの様子



写真4. 福島建築工業新聞の掲載記事

利活用など学ぶ
第3回田村地域空き家セミナー

第3回田村地域空き家セミナーは8日、田村市のテレワークセンターテラス石森で開かれ、参加者は空き家を生かした地域振興や交流について理解を深めた。シエイアル東日本企画の主催、田村市、三春町、小野町の局川佐久間建設工業が

後援。
 事例の少ない田村地域で空き家を地域の活性化やビジネスにつなげようと開催した。都市部、地方を問わず課題となっている「空き家」を活用することで地域振興や住民の交流を図る。会津エリアで空き家の活用等を行っている一般社団法人IORI倶楽部（事務局川佐久間建設工業）が協力した。

空き家の再生について学ぶ参加者
 ……
 約30人が参加した。セミナーでは、田村地域で古民家改修を手掛けるコドモエナジーの岩本泰典社長が講師を務めた。岩本社長は「これから空き家ビジネス」と称し、震災後に川内村で取り組んだ事例を紹介した。空き家をコミュニテ

イ施設や宿泊施設に改修したほか、日本初出店となるタイ最大のコヒーチェーン店が入居するカフェにリノベーションした様子を紹介し、「地域の特性を踏まえた改修が必要だ。建物は古ければ古いほど文化や想いが残るので、どのように再生させるかが大切だ」と述べた。

⑤相談事務の実施

開設した「田村空き家の窓口」を利用し、空き家の所有者や利活用希望者等の相談者に対して、相談事務を行った。基本的には電話にて受付を行い、必要に応じて、現地訪問を行うか、窓口に来訪いただくかを判断し対応した。また、情報提供に留まらず、手続き書類の作成サポートを行うなど、相談者の不便さを解消できるよう取り組んだ。

写真5. 現地視察の様子



(3) 成果

①ワンストップセンターの開設

田村地域内に存在していなかった空き家相談に係るワンストップセンターを開設し、田村地域における空き家対策の基盤整備に取り組んだ。

②ワンストップセンターの周知

チラシ・専用ホームページ・FaceBook等のSNSを活用し、「田村空き家の窓口」を周知することで、本事業の認知向上や相談案件の獲得・利活用希望者の発掘に繋がった。

③地域の専門家等との連携体制の構築

田村地域の専門機関等をリストアップし、個別訪問しながら各機関の実態を把握することで、本事業に関する関心の高低や具体的に活用できるサービスの有無等を確認でき、より地域の実情に即した連携体制の構築を図った。

④相談員や専門家の研修・育成

全3回の空き家活用セミナーを実施し、のべ100名以上の方々に参加頂いた「とても参考になった」とアンケートに回答した割合も毎回7割を超え、参加者にとって有意義な機会提供に繋がった。特に、継続参加者においては回数を重ねるごとに、空き家問題・活用について具体的な関心を抱くようになり、「今後、具体的なプロジェクトがあれば関わってみたい」という前向きなコメントを頂いているため、空き家対策の啓発に繋げることができた。

■参加者の感想（参加者からのアンケートより）

第1回 空き家活用セミナー 僕らにもできる空き家リノベーション

- ・これから空き家が増えてくる所だと思うので、空き家の様々な可能性を知るきっかけがあるといいなと思う。
- ・若者が楽しいこと、面白そうなことに前向きに取り組んでいる姿に私もこれからはがんばっていかうという気持ちになりました。
- ・空き家を探している側からの話も聞けたらよかったですと思いました。

第2回 空き家活用セミナー 里山暮らしの始め方

- ・（紹介された事例にごとに）空き家に住む目的はどんなものがあつたのか知りたい
- ・空き家が借家として活かされていない。現状を改善するための方策を知りたい。
- ・空き家が生じる原因と、そこから派生する諸問題について知りたい。

第3回 空き家活用セミナー これからの空き家活用ビジネス

- ・民間企業の方々が積極的に取り組む先進事例をみて大変参考になりました。
- ・真剣にビジネスとして考えることができた。ぜひ体験型のセミナーをお願いしたい。
- ・空き家所有者との具体的な調整・交渉プロセスを知りたい。

⑤相談事務の実施

田村空き家の窓口の運営および相談者に対する相談対応を実施し、地域内の空き家対策に関連する情報提供や利活用の促進を行った。地域における初めての試みであり、開設して間もないことから相談件数自体は平均的なものとなったが、相談窓口の存在が徐々に口コミによる広がりを持ったことから所有者本人以外からの相談が持ち込まれることが多かった。

表3. 相談者および相談内容／方法別の相談件数

		相談方法				
		電話	メール	来訪	その他	計
所有者本人	管理			1	2	
	売買					
	賃貸					
	解体					
	複合					
	上記以外					
	小計			1	2	3
所有者本人以外	管理	5		2	3	
	売買					
	賃貸					
	解体					
	複合					
	上記以外					
	小計	5		2	3	10
利活用希望者	管理			1	1	
	売買					
	賃貸					
	解体					
	複合					
	上記以外	1		1		
	小計	1		2	1	4
合計	管理	5		4	6	
	売買					
	賃貸					
	解体					
	複合					
	上記以外	1		1		
	計	6		5	6	17

表 4. 相談の具体例

相談者の所在地	相談者の属性	空き家の所在地	相談内容	相談対応
田村市	所有者本人	田村市	約20年間空き家の物件を、今後どのように維持管理していけばよいのか不安がある。また、元々は近隣住民より譲り受けた物件のため、利用希望者がいれば無償で提供したい。	現地対応を実施。物件内まで確認でき、躯体の状態や残留物の状況など実態把握を行った。利活用の意向が確認できたため空き家バンクへの登録を促すが、相談者が高齢のため手続きが難しく、後日再訪問し手続きのサポートを実施。
田村市	所有者本人以外	田村市	空き家とみられる物件の近所に住む住民より相談。所有者は既に亡くなっているが、現在は放置されている状況。物件自体の傷みもひどい状況のため、今後自分らの家にも悪影響が及ぼされないか不安がある。	来訪および現地対応を実施。相談者は所有者の親族とも顔見知りであったため、親族が当該物件に訪れた際に、空き家の窓口紹介および空き家バンク登録を促すよう調整を実施。今後、所有者本人の関係者と窓口が接点を持ち、対応方法を検討する。
いわき市	利活用希望者	-	空き家を自分でリノベーションし、そこで生活したい。ただ、手持ちが少ないため実施するとなった際の期間・費用・手続き等が分からないので教えてほしい。	電話で一時対応を実施。物件ごとに状況が異なることを説明し、開催を予定していたセミナー内容が参考になりそうなテーマであったため、ご案内。セミナーにお越し頂いたので、終了後にご本人の意向確認と今後の進め方を整理した。

3. 評価と課題

①ワンストップセンターの開設

「田村空き家の窓口」については地域内での初めての試みということもあり、関係機関との調整や相談員の確保に時間を要したが無事に開設に繋げることができた。これは、既に同県の近隣エリアで先駆的な取組を行っている(一社)IORI 倶楽部のサポートがあったためと考えられる。

しかし、田村空き家の窓口においては、設置場所である「テラス石森」の特徴を活かし、空き家の所有者や利活用希望者等の相談者に対して、地域の実情に即した適切な提案や情報提供に留まらず、空き家対策の遂行によって広がりを見せてくる様々な周辺の事業やサービスの展開においても中心的な役割を果たすことが可能な「場」として機能することも目指していた。

本年度は、IORI 倶楽部のサポートがあり、既存のノウハウを活用しながら効率的かつ効果的な相談窓口の設置・運営を行ったが、今後はどのようにして「テラス石森」の特徴を活かしながら、窓口運営に広がりを持たせていくのかは検討する必要がある。

②ワンストップセンターの周知

チラシ・専用ホームページ・FaceBook等のSNSを活用し、「田村空き家の窓口」を周知することで、本事業の認知向上や相談案件の獲得・利活用希望者の発掘に繋がった。新聞折込や業界紙に掲載された効果もあったが掲載直後の一時的なものであり、相談窓口に持ち込まれてきた相談の多くが関係者からの紹介や口コミによる紹介である実態を踏まえると、一時的な周知ではなく、アナログ・デジタルの両側面から継続的に周知活動を行えるかが重要であると考えられる。そのため、今後も継続して相談案件の進捗や関連する有益情報を配信し、相談窓口の認知向上に繋げていく。

③地域の専門家等との連携体制の構築

地域の空き家に関わる専門機関等をリストアップし、個別訪問等を通じてよりリアルな地域の実態を把握とリストの精査に取組めた。しかしながら、持ち込まれる相談の多くが窓口相談員で対応できる内容であったため、具体的な相談案件として専門機関等へ相談・連携依頼を行

うには至らなかった。

今後、連携が必要な具体的な相談が持ち込まれた際にスムーズな調整を図るためにも、例えば定期的な情報交換会や相談窓口の取組報告を実施する等、常に各機関との関係性の構築と状況把握を行うことで、より地域の実態に即した連携体制の構築に繋げていく必要がある。

④相談員や専門家の研修・育成

(一社)IORI 倶楽部による相談員への OJT 研修に加え、空き家の相談員の専門知識向上および地域の専門機関・住民へむけた啓発活動の一環として空き家活用セミナーを開催し、空き家の利活用に関する理解を深めることができた。アンケート結果からも参加者の満足度が高く、今後は「空き家×地域交流」や「空き家×民泊」等のテーマについても学びたいとの意向の把握もできている。また、参加者の中には空き家の所有や利活用希望者もいたため、今後はセミナー内でニーズのマッチングやリノベーションプロジェクトを立ち上げる等、具体的な取組へと発展できるよう努める。

⑤相談事務の実施

所有者からの相談としては所有している空き家をどのように管理していけばよいのかという内容が多く、所有者以外からの相談としては近所に空き家があるのでまずは見に来てほしいというものが多く、いずれの案件も次のステップに進むまでに時間がかかることが想定されている。今後、具体的な相談事例が増えてくるに従い、売却や利活用等に踏み出すケースも増えてくると考えられるため、引き続き相談対応に努める必要がある。

4. 今後の展開

本年度は、関係機関との調整や相談員の確保に時間を要したため「田村空き家の窓口」を開設し相談対応を実施したものの、本事業の目的である空き家対策上の基盤を整備する上では、相談窓口の効率的かつ効果的な運用、相談員の対応力強化、持続的な活動に繋げるための地域の空き家対策の担い手発掘等、注力しなくてはならない事が多くあり、今後も本事業の取組を続け、より強固な基盤を整備できるよう努めていく必要がある。

また、本年度の取組において空き家における所有当事者以外から多く相談を持ち込まれている実態や、空き家期間が長くなればなるほど利活用が困難になることを踏まえると、「いかにして早期に所有関係者から相談を持ち込まれるか」が空き家の管理・利活用を行ううえでは重要であり、そのような状況を作り出せることが田村地域における空き家対策の基盤が整備されている状態の一つであると考えられる。

そのため、今後の具体的な基盤整備の方向性として、引き続き相談窓口の周知やセミナーの企画・運営を通じて相談件数の増加に努めるとともに、相談窓口で得られた空き家物件をリノベーションし利活用のモデルケースとして示し、活用から生まれた新たな価値や魅力について広く伝えることで、所有関係者から早期に相談が持ち込まれる状態を作り、地域資源としての空き家の有効活用を推進できるよう取組む。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	昭和 63 年 5 月		
代表者名	原口 宰		
連絡先担当者名	引谷 幹彦		
連絡先	住所	〒150-8508	東京都渋谷区恵比寿南 1-5-5 JR 恵比寿ビル
	電話	03-5447-0960	
ホームページ	http:// https://www.jeki.co.jp/		